

ただいま！ 非日常

特別扱いされたい。例えば、お嬢様、ご主人様と呼ばれてみたりして。そんな願いを叶えてくれるのが、メイドカフェだ。

友人と共に訪れたのは、東京・秋葉原、@ほおむカフェドンキ店。「萌え萌え〜」で二〇〇五年に流行語大賞を受賞している、まさにメイドカフェ文化の聖地だ。

店に入るとメイドさんが案内してくれる。私たちの担当は、かなたん。フリルのついた膝上丈のスカート、胸元には大きな赤いリボンの制

服。二つ結びの髪留めの、苺とくまさんが可愛いらしい。

「お帰りなさいませ、お嬢様♡」。につこり。噂の「お出迎え」というやつだ。

初めての来店では、メイドさんに名前を訊かれる。林です、と答えた。下の名前と呼ばれるのは恥ずかしい。かなたんは一瞬言葉に詰まるも、すぐに笑顔を浮かべる。

「じゃあ、はやびっぴお嬢様ってお呼びしますね！」

より恥ずかしいことになるとは思

いもしなかった。

ピンク色で統一された店内には、カウンター席のほか、ゆったり座れるテーブル席もある。一人でじつくりもいいし、グループでにぎやかにもいいだろう。壁に面したステージでは、萌え萌えじゃんけん大会といったイベントや記念撮影が行われる。撮影は別料金だが、撮った写真にはメイドさんの手描きメッセージがもらえるのだ。

フリルたっぷりの黒ワンピースに薔薇のカチューシャという友人のゴスロリ姿も、この店内には不思議と馴染む。曰く、ここはカフェというよりメイドさんたちと話して遊べるテーマパーク。女性だけでも子ども連れでも、気軽に楽しめる。私たち

のようなお嬢様二人組やカップルは珍しくないという。初めは面白半分に来て、だんだん魅力にはまっっていくらしい。うん、分かる。

ちなみに彼女は「ご帰宅」回数五〇回越えのゴールドカードお嬢様。可愛いメイドさんときゃっきやできるのが嬉しいの。「優しい非日常を楽しみたい時だってあるでしょ？」。微笑みがちよつと怖い。

メニューには、独創的な名前が並び。選んだ「つん★でれ♥パフェ」がくる。いよいよ本番だ。かなたんが手でハートを作る。それじゃ一緒に美味しくなる呪文を唱えてくださいね。笑顔に促され私たちもハートを作る。

「萌え萌え〜きゅんっ！」



甘えたような高い声、友人のハイテンションな作り声、私のためらいがちな低めの声。呪文が混ざり合う。これで美味しくなりましたよっ、召し上がれ〜と手を振ってかなたんは去っていった。パフェは甘酸っぱく、確かに美味しかった。

左横から聞こえてくる、パースデ

ーソングの歌声。メイドさんに囲まれた男性が、嬉しそうにはにかんでいる。「ご主人様おめでとうございます！」。店内の客からも拍手が起こった。彼はガッツポーズを繰り返す。「生まれてきて良かった、ありがとうございます。Tシャツにプリントされた、アニメキャラの少女も微笑んでいた。

店を出る時、認定証を手渡された。ポイントカードだ。これで、私もこのお嬢様。「またのお帰りをお待ちしています、はやびっぴお嬢様♡」

現実の姿がどうであれ、ここでは誰もがご主人様、お嬢様。特別になれるひと時を求めて、「帰ってきたくなる」場所だ。